

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】令和 1 年 5 月 16 日 (2019.5.16)

【公開番号】特開 2017-111460 (P2017-111460A)
 【公開日】平成 29 年 6 月 22 日 (2017.6.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2017-023
 【出願番号】特願 2017-27175 (P2017-27175)
 【国際特許分類】

G 0 3 G 9/12 (2006.01)

G 0 3 G 9/13 (2006.01)

【 F I 】

G 0 3 G 9/12

G 0 3 G 9/12 3 2 1

【手続補正書】
 【提出日】平成 31 年 4 月 1 日 (2019.4.1)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

ポリエステルを含む樹脂及び顔料を含有するトナー粒子が分散剤の存在下で絶縁性液体中に分散してなる液体现像剤であって、前記絶縁性液体の 40 で 30 分保持後の揮発率が 0.26 質量 % 未満であり、液体现像剤の 25 における粘度が、3mPa・s 以上 33mPa・s 以下である、液体现像剤。

【請求項 2】

絶縁性液体の初留点と乾点の差が、30 以下である、請求項 1 記載の液体现像剤。

【請求項 3】

絶縁性液体が、ナフテン系炭化水素を含有する、請求項 1 又は 2 記載の液体现像剤。

【請求項 4】

ポリエステルが、2価以上のアルコールを含むアルコール成分と 2価以上のカルボン酸系化合物を含むカルボン酸成分とを重縮合することにより得られるものである、請求項 1 ～ 3 いずれか記載の液体现像剤。

【請求項 5】

分散剤が、塩基性吸着基を有する塩基性分散剤を含有する、請求項 1 ～ 4 いずれか記載の液体现像剤。

【請求項 6】

塩基性分散剤が、ポリイミンとカルボン酸の縮合物である、請求項 5 記載の液体现像剤。

【請求項 7】

液体现像剤の固形分濃度が、10 質量 % 以上 50 質量 % 以下である、請求項 1 ～ 6 いずれか記載の液体现像剤。

【請求項 8】

40 で 30 分保持後の揮発率が 0.26 質量 % 未満である絶縁性液体の、液体现像剤の媒体としての使用。

【請求項 9】

ポリエステルを含む樹脂及び顔料を含有するトナー粒子が分散剤の存在下で絶縁性液体

中に分散した液体现像剤の製造方法であって、

工程 1：ポリエステルを含む樹脂及び顔料を溶融混練し、粉碎してトナー粒子を得る工程

、

工程 2：工程 1 で得られたトナー粒子に分散剤を加え、絶縁性液体中に分散させ、トナー粒子分散液を得る工程、及び

工程 3：工程 2 で得られたトナー粒子分散液を湿式粉碎し、液体现像剤を得る工程

を含み、

前記絶縁性液体の40 で30分保持後の揮発率が0.26質量%未満であり、液体现像剤の25における粘度が、3mPa・s以上33mPa・s以下である、

液体现像剤の製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 9】

実施例 4 ～ 7 (実施例 7 は参考例である)

樹脂 A の代わりに表 3 に示す樹脂 85 質量部を使用した以外は、実施例 1 と同様にして表 4、5 に示す物性を有する液体现像液を得た。